

政 策 (9)	だれもが気軽に楽しめるスポーツ
---------	-----------------

基本構想でめざす姿や状態

- スポーツを気軽に楽しめ、健康づくりや体力づくり、仲間づくりができること。
- スポーツに取り組める環境があり、競技力が向上すること。
- スポーツイベントなどを通じて、バスケの街として誇りが高まること。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
スポーツに親しんでいる市民 (週一回以上)の割合	43.7% (H19年度)	50.0%	60.0%	市民意識調査
優良競技者・団体表彰数(栄光賞)	134人 (H19年度)	170人	190人	
スポーツ少年団認定指導者数	364人 (H19年度)	450人	維持	
バスケの街を他に誇れると思う 市民の割合	73.6% (H19年度)	75.0%	77.5%	市民意識調査

施 策

- ① スポーツを楽しめる環境を整える
- ② 競技スポーツの環境を確保する
- ③ 特色あるスポーツのまちづくりを展開する
- ④ 効率的で効果的な体育施設にする

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○スポーツに親しむことを心がける ○スポーツに関して持っている知識や技能を生かす活動をする ○バスケの街として、訪れる選手・観客を温かく迎える
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○市民の力を活用し、初心者でも参加しやすいスポーツクラブの育成や事業の開催などを行う(体育協会、スポーツ団体、NPO団体等) ○スポーツの指導者やコーディネーターが自主研修する(体育協会、スポーツ団体等) ○バスケの街として、チームの育成や大会の開催、競技の普及啓発などを行う(体育協会、バスケットボール協会等)
事業者等 (生産者等含む)	○バスケの街を推進するため、グッズを開発・販売する ○スポーツイベントに対する協賛などの支援を行う ○バスケの街として、チームの育成や大会開催の支援などを行う
行政機関	○スポーツ関係団体と連携して、組織づくりや人材育成を進める ○既存スポーツ施設の利活用を検討する ○バスケの街づくりの市民活動を支援する

政 策 (10)	認め合い支え合う社会づくり
----------	---------------

基本構想でめざす姿や状態

- 性別や国籍などにかかわらず、一人ひとりの個性や能力を発揮できること。
- 人権意識や平和意識が浸透すること。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
一人ひとりの個性や能力を発揮できる地域になっていると思う市民の割合	8.5% (H19年度)	20.0%	30.0%	市民意識調査

施 策

- ① 男女共同参画意識を広める
- ② 国際理解を広める
- ③ 人権意識や平和意識を守る

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○男女共同参画に関する講座への参加などを通じて、意識を高め、実践する ○ライフスタイルに応じて、職場と家庭のバランスがとれる働き方、暮らし方を する ○外国人も隣人であるという意識を持ち、地域の行事やイベントなどに誘い、交流 を図る
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○女性の起業を支援する（商工会議所・商工会等） ○日本語の学習会などを通じて、市民に異文化の理解を広める（ボランティア団体 等） ○人権意識などの浸透のため、関係する団体同士が連携して情報交換を行う（人権 擁護委員、保護司、民生委員・児童委員等）
事業者等 (生産者等含む)	○性別・国籍を問わず働きやすい環境づくりに取り組む ○職場と家庭のバランスがとれる働き方ができる職場づくりに取り組む ○男女共同参画社会づくりに関する研修会などを実施する
行政機関	○男女共同参画の視点を持って施策展開を図る ○市民の男女共同参画意識を高めるよう啓発活動をする ○女性の起業を支援する

政 策 (1)	環境を核とした活力ある産業創出
---------	-----------------

基本構想でめざす姿や状態

- 地域資源の利活用により、産業の創出や関連企業の立地につながることを。
- 能代港の利活用により、地域に活気が出ることを。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
資源リサイクル関連新設・増設 企業数	0件 (H18年度)	5年間で5件	10年間で10件	
地域の資源を活用した商品や製 品を利用することを心がけてい る市民の割合	34.2% (H19年度)	45.0%	55.0%	市民意識調査
能代港の外港・内港商船入港船 舶数（能代火力発電所専用棧橋 を除く）	277隻 (H18年)	330隻	350隻	
能代港の貨物量（能代火力発電 所専用棧橋を除く）	483,562 t (H18年)	547,000 t	571,000 t	

施 策

- ① 資源リサイクル産業を創出する
- ② 能代港利活用の環境を整える
- ③ バイオマス関連産業を創出する

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○地域資源を利活用したものを使う ○ごみの分別やリサイクル品の利用を心がける ○資源リサイクルの理解に努める
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○地域資源として利活用できるものを調査・研究する（大学、研究機関等） ○地域資源を利活用したもののPRを行う（市民グループ等） ○地域資源の利活用に関するコーディネーターを育成する（産業関係団体等）
事業者等 (生産者等含む)	○地域資源を利活用したものを開発し、販売する（生産者、木材会社等） ○地域資源を利活用したものを使う（生産者、木材会社等） ○地域資源を利活用したものの品質管理・向上に努める（企業等）
行政機関	○地域資源を利活用したものを推奨する ○地域資源を利活用したものの開発や販売に支援する ○ポートセールスや企業訪問活動を積極的に行う

政 策 (2)	雇用を産み出す企業立地
---------	-------------

基本構想でめざす姿や状態

- 新たな企業立地や起業により、若い人を中心に雇用やチャレンジの機会が増えること。
- 企業誘致に関する情報が十分に企業に伝わり、企業立地につながる。
- 地域と企業の連携により、雇用創出などの効果を発揮できること。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
新設・増設企業数（リサイクル 関連企業数を含む）	3件 (H18年度)	5年間で10件	10年間で15件	
有効求人倍率	0.40倍 (H18年度)	県平均に近づける	県平均を上回る	
新規高卒者の就職内定率	95.9% (H18年度末)	99.0%	維持	

施 策

- ① 企業誘致を進める
- ② 地元企業や進出企業を活性化する
- ③ 起業しやすい環境を整える
- ④ 若年者を中心に雇用を確保する

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○地域の優位性を地域外にPRする ○企業立地に対して理解・協力する ○起業に出資する
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○地域外からの情報を収集する（商工会議所・商工会、能代PR大使等） ○新卒者に、就職相談会の開催や求人情報の発信を行う（商工会議所・商工会等） ○起業セミナーを開催するなど、起業を支援する（商工会議所・商工会等）
事業者等 (生産者等含む)	○求人情報を発信する（企業等） ○企業間で情報交換などの交流を行う（企業等） ○起業に出資する（企業等）
行政機関	○企業からの情報収集や、企業に対する地域の優位性をPRする ○融資などの支援制度を周知する ○起業に対する各種支援を行う

政 策 (3)	力強く持続する農業
---------	-----------

基本構想でめざす姿や状態

- 地元産の農産物や加工品の市場評価が高まり、産地として確立すること。
- 農業が魅力的な職業として成り立ち、若い人を中心に農業の担い手が増えること。
- 農業の生産性が高まり、経営の強化につながる。
- 食の大切さへの理解が深まり、食育が浸透して実践につながる。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
野菜作付面積	745ha (H17年度)	740ha	維持	
担い手農地集積率(個人・集団を含む)	46.8% (H17年度)	74.3%	増加に努める	
地元産の農産物は安全でおいしいと思う市民の割合	77.5% (H19年度)	80.0%	85.0%	市民意識調査
学校給食で使用している野菜類のうち秋田県産の割合	28.8% (H18年度)	35.0%	40.0%	

施 策

- ① 安全・安心で消費者ニーズに対応した農業を確立する
- ② 農業の担い手を育成する
- ③ 農業生産を効率化する
- ④ 農地を保全する

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○ 地元産の農産物を積極的に購入する ○ 贈り物などを通じて地元産の農産物をPRする ○ 食に関する正しい知識や望ましい習慣を身につける
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○ 適地作物の研究を行う(大学、研究機関等) ○ 地元産の農産物の良い点を分析する(大学、研究機関等) ○ 農産物の品質向上のための研究を行う(大学、研究機関等)
事業者等 (生産者等含む)	○ 安全でおいしいものを生産し、独自の規格やブランドをつくってPRや販売を行う(生産者、生産者団体、JA等) ○ 地元産の農産物を使って商品を開発する(生産者、生産者団体、JA、企業等) ○ 地元産の食材を使う(飲食店、宿泊所等)
行政機関	○ 地元産の農産物の価値を高めるための取組や支援を行う ○ 物産交流の取組を検討する ○ 地産地消や食育を推進する

政 策 (4)	山・川を生かす林業・木材産業・水産業
---------	--------------------

基本構想でめざす姿や状態

- 秋田スギの利用が進み、林業や木材産業の経営強化につながる。
- 秋田スギの良さを伝え、木のまちとして、街なかに木のぬくもりを感じられること。
- 産学官が連携して調査や研究が進み、林業や木材産業の育成につながる。
- 森林の手入れや保全により、水の貯留や浄化などの機能を維持でき、水産資源の持続的な利用につながる。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
木材製品出荷額	22,782百万円 (H18年)	23,000百万円	維持	
木のぬくもりや木のまちとしての 雰囲気があると思う市民の割合	35.9% (H19年度)	55.0%	70.0%	市民意識調査
木の学校利用者数	10,975人 (H18年度)	13,000人	15,000人	
共同研究等(委託を含む)で実 際に商品化できた件数	0件 (H18年度)	2件	5件	
松くい虫被害量	970㎡ (H18年度)	750㎡	500㎡	
漁獲高(海)	159 t (H17年度)	159 t	維持	

施 策

- ① 木の良さを生かし多様なニーズに対応した林業・木材産業を確立する
- ② 木材関連の高度な機能を活用する
- ③ 木に親しめるまちづくりを進める
- ④ 林業生産を効率化する
- ⑤ 森林や川を保全する
- ⑥ 水産業を振興する

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○外装など見えるところに木を使う ○秋田スギの良さを理解する ○森林の保全管理を行う(森林所有者等)
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○製品化や商品化に結びつく木材の研究を行う(大学、研究機関等) ○外観に木を多く使った家の研究を行う(大学、研究機関等) ○森林の保全に協力する(ボランティア団体等)
事業者等 (生産者等含む)	○木のぬくもりを伝える木製品を推奨する(設計事務所、工務店、大工等) ○外観に木を多く使った家づくりを推奨する(設計事務所、工務店、大工等) ○良質な木材の生産を行う(森林組合等)
行政機関	○木のまちづくりのための支援を行う ○街並み景観に配慮した取組を行う ○外観に木を多く使う家づくりをPRする

政 策 (5)	まちなのにぎわいをつくり出す商業
---------	------------------

基本構想でめざす姿や状態

- 商店街に人が集まり、交流やにぎわいが生まれ、街に活気があること。
- 商店街や個店に特色があり、空き店舗の活用が進むこと。
- 商店街と大型店の連携があり、市外に出なくても買い物ができること。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
地元商店街や近所の商店を利用することを心がけている市民の割合	45.7% (H19年度)	58.0%	70.0%	市民意識調査
商店街の空き店舗率	18.5% (H18年度)	18.5%	維持	

施 策

- ① 歩きたくなる商店街づくりを支援する
- ② 中心商店街の空き店舗流動化を進める
- ③ 商店街のイベントなどを支援する

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○ 地元にある商品は地元で購入する ○ 地元商店街などのまち歩きを心がける ○ 消費者として商店にはっきりとニーズを伝える
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○ 商店主や店員が経営や接客などに関して研修できる場を設ける（商工会議所・商工会等） ○ 集客イベントなど商店街と連携して活気を生み出す活動を行う（自治会・町内会、婦人会等） ○ 島町通りに駐車スペースを設置する活動を行う（市民グループ等）
事業者等 (生産者等含む)	○ 経営や接客、開店時間など、高齢者にやさしい商店をつくる（商店主、商店会等） ○ 専門店化や小口販売など消費者ニーズに合わせた商売を行う（商店主、商店会等） ○ 街なかに産直店を設ける（生産者、生産者団体、JA等）
行政機関	○ 商店街に人が集まりやすい環境整備を支援する ○ 商店街などの積極的な取組に支援・協力する ○ 商店街の空き店舗流動化の取組を進める

政 策 (6)	豊かな自然とその恵みを活かす観光
---------	------------------

基本構想でめざす姿や状態

- 観光による交流やにぎわいが生まれ、地域に活気があること。
- 豊かな自然や特色ある郷土料理など、地域資源の魅力により、来訪者の満足度が高まること。
- 観光やイベントの宣伝ができていて、地域のイメージが高まること。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
観光客入込客数	1,397,546人 (H19年)	1,600,000人	1,800,000人	
豊かな自然や特色ある郷土料理 など、他に誇れる観光資源があ ると思う市民の割合	46.1% (H19年度)	56.0%	70.0%	市民意識調査

施 策

- ① 自然や食などを堪能できる環境を整える
- ② 観光素材をメニュー化して受入体制を整える
- ③ 人を迎え入れる情報発信を充実する
- ④ 交流が広がるイベントや行事を支援する

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○地元の見どころや食の良さを紹介できるようになる ○地域外の人と交流を持つ ○フィルムコミッションの活動に参加・協力する
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○体験観光メニューを開発する(観光協会等) ○地元の見どころや飲食店などの情報を提供する(観光協会等) ○地元食材を活かした食による誘客に取り組む(観光協会等)
事業者等 (生産者等含む)	○体験観光メニューを開発し、販売する(旅行会社等) ○地元の良さを活かした旅行商品を開発し、販売する(旅行会社等) ○能代駅前など適所に食事どころを設ける(商店主等)
行政機関	○地元の見どころや食の良さを広報やホームページなどで周知する ○イベントや伝統行事などの情報や案内を伝わりやすいように工夫する ○体験観光メニューや地元の良さを活かした旅行商品の開発を支援する

政 策 (7)	自然と共生し地域で支える環境保全
---------	------------------

基本構想でめざす姿や状態

- 自然と親しみ、自然を通して人がふれあい、地域の財産として保全と活用ができること。
- 環境問題に対して適正に対処し、良好な環境を保全できること。
- 身近な環境や自然、エネルギーに関する理解が深まり、地域ぐるみの環境活動につながること。

めざす目標指標

指 標	現 状	5年後の目標 (平成24年度)	10年後の目標 (平成29年度)	備 考
米代川やきみまち阪、風の松原などの豊かな自然は、他に誇れると思う市民の割合	71.7% (H19年度)	81.0%	90.0%	市民意識調査
環境自治体スタンダード (LAS-E) の合格ステージ	第1ステージの合格 (H19年度)	第2ステージ、エコアクション部門の合格	着実にレベルを上げる	

施 策

- ① 環境保全の活動や学習を広める
- ② 優れた自然環境を保全する
- ③ 環境調査や環境対策を適正に行う
- ④ 新エネルギーを導入・普及する

効果を高めるための取組・実現したい取組

市 民	○ 自然エネルギーの理解を深め、環境活動に参加する ○ ごみのポイ捨てや野焼きはしないなど、モラル意識を持ち、環境美化に努める ○ 庭木などの松くい虫を防除する
各種団体等 (NPO・大学等含む)	○ モラル意識向上のための活動を行う (市民グループ等) ○ 自然環境の美化・保全活動を行う (ボランティア団体等) ○ 松くい虫の防除体制の構築や、協賛などの支援を募る (ボランティア団体等)
事業者等 (生産者等含む)	○ 社会貢献の一環として環境保全の活動を積極的に展開する ○ 野焼きをしないなど、法令を守る ○ 松くい虫防除に協賛などの支援を行う
行政機関	○ 自然環境の保全状況を把握する ○ 環境問題に対する教育を充実する ○ 松くい虫防除など自然環境保全の活動を支援する